

## マーケットの動き（2026年1月5日～1月9日）

先週の国内債券市場は、12月30日比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。週初は、国内株式市場上昇を背景に投資家のリスク選好姿勢が強まり、債券は売りが優勢となりました。6日の10年利付国債入札は無難に通過しましたが、その後は中国による対日輸出規制の報道を受け、日中関係悪化による景気減速懸念が意識され、金利は上昇幅を縮めました。クレジット市場は、引き続き堅調に推移しました。

## 投資環境見通し（2026年1月）

## 国内長期金利に対する上昇圧力は残る

日銀は12月の金融政策決定会合で利上げ再開を決定し、日銀総裁は今後も利上げ路線を継続する姿勢を示しました。その後もなお、政策金利の到達水準を巡る思惑や財政拡大政策を背景とした需給悪化懸念は残ることから、国内長期金利に対する上昇圧力は残るとみています。ただし、今後の利上げ継続についてはすでに相当程度織り込まれたとみられることから、国内長期金利の上昇余地は限定的とみています。

	1月9日	変動幅（騰落率）			
		12月30日比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） (変動幅)	2.09	0.02	0.13	0.60	0.91
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	335.32	▲0.21%	▲0.67%	▲3.05%	▲5.82%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202601\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202601_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それに関する著作権等の一切の権利は、それを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月9日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月9日）



※2024年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成